

会 議 録 (要 旨)

会 議 の 名 称	平成28年度 第2回東村山市みんなで進めるまちづくり基本条例見守り・検証会議				
開 催 日 時	平成28年8月24日(水) 午後6時～8時				
開 催 場 所	東村山市役所いきいきプラザ3階 マルチメディアホール				
出 席 者 及 び 欠 席 者	<p>●出席者：</p> <p>(委 員) 西村委員(会長)、紺野委員(職務代理)、高橋委員、十時委員、鳥本委員、平野委員、山崎委員</p> <p>(市) 渡部市長、荒井副市長</p> <p>(事務局) 小林経営政策部長、瀬川経営政策部次長、安保企画政策課長、足立企画政策課主査、新床企画政策課主任</p> <p>●欠席者：なし</p>				
傍 聴 の 可 否	可	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	1名
会 議 次 第	<p>1 市長挨拶</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 前回会議録の確認</p> <p>(2) 検証作業</p> <p>●検証作業の進め方</p> <p>① 介護予防・日常生活支援総合事業</p> <p>② 東村山市人口ビジョン・東村山市創生総合戦略</p> <p>3 その他</p>				
問 い 合 わ せ 先	<p>東村山市みんなで進めるまちづくり基本条例見守り・検証会議事務局</p> <p>(東村山市経営政策部企画政策課)</p> <p>住所：〒189-8501 東村山市本町1-2-3 電話：042-393-5111(内線2213)</p>				
会 議 経 過					
<h3>1 市長挨拶</h3> <p>【市長】</p> <p>皆さん、こんばんは。先ほど急な雨が降り、お足もとの悪い中、本日の第2回見守り検証会議にご出席をいただき、感謝申し上げます。また日頃は、東村山市政推進にあたり、皆様には大所高所からご協力いただき、改めてお礼申し上げます。</p> <p>本検証会議においては、今年は市民参加について検証いただくということで、前回第1回目で、昨年度行った事業の中で4つほどセレクトしていただいて、その取り組みについてどうであったのか、これから検証していただくことになる。なかなか、市民参加自体の評価というのは難しく、これが正しいやり方という数学の方程式のようなものはない。市民の皆さんの意識、あるいは、我々行政の意識、その中でこういうやり方がいいのではないかとということで進めていくものであり、果たしてこれで良かったのかどうか、仮に参加したことで良くなったのか悪くなったのか、その内容自体についても、あるいは参加いただいた市民の皆さんの意見をどの程度どういう形で反映されたのか、実は非常に検証しづらい。皆様には大変ご苦勞をおかけすることになろうかと思う。</p> <p>やはり、今日のテーマになっている「介護予防・日常生活支援総合事業」についても、「人口ビジョン、東村山市創生総合戦略」にしても、実はこれからの東村山市にとって非常に重要な内容である。かつ、行政</p>					

で完結するものではなくて、介護予防等についても一人一人の市民の皆さんが自覚して健康寿命を延ばしていただける枠組みの中で効果を発揮する事業である。「東村山市創生総合戦略」についても、市の産業政策という面もあるが、それだけではなく、やはり、市民の皆さんが東村山市に関心を持っていただいて、このまちを高齢化や人口減少の進む中でどうやって盛り上げていくか、市民の皆さん自身もお考えいただき、もし機会があればそういう活動にもご参加をいただくことが大事なのではないかと思っている。

そういう意味でいうと、単に計画を作るためだけに市民参加があるのではなく、その先により多くの市民の皆さんがまちづくりに実際に参加をいただくためにこの手法が良かったのかどうかという観点でご覧いただくのが一番いいのではないかと思っている。ぜひご検討いただき、またご指導いただければありがたい。よろしく願います。

2 議事

(1) 前回会議録の確認

○委員からのご指摘箇所を会長と事務局で確認した上で、ホームページに公開することが決定された。

(2) 検証作業

● 検証作業の進め方

○事務局より、検証作業の進め方について、説明する（※資料「**検証シート**」参照）。

【事務局】

○本日、「**介護予防・日常生活支援総合事業**」と、「**東村山市人口ビジョン・東村山市創生総合戦略**」について検証を行う。次回の会議で、「**東村山市第4次総合計画後期基本計画**」および「**第4次東村山市行財政改革大綱後期基本方針**」について検証する。

○検証作業の進め方として、事務局より説明後、各委員より質疑を受ける。その後、この場で各自、判定する。最後に、各委員の判定について、お一人ずつ簡単に発表いただく。

○判定の5段階評価の内容が、「5. 非常に優れている」「4. 優れている」「3. 適切である」「2. あと一歩である」「1. 努力が必要である」というように昨年度より若干変更となっている。

【会長】

ご意見については、今回も、昨年と同じように一つの意見に取りまとめるということが目的ではなくて、それぞれの立場、それぞれの観点でご覧いただいて、それぞれがご判断いただく。

特に重要なのは「素晴らしい」という判定も重要だが、「努力が必要」という判定の時に、できれば併せてその理由をお伝えいただきたい。ぜひ建設的なご意見をいただければと思う。

私は会長なので、私自身の意見は申し述べることはせずに、皆様からのご意見を受け賜るということで進めてまいりたいと考えている。

【全委員】

了承。

① 介護予防・日常生活支援総合事業

【事務局】

○事務局より、「**介護予防・日常生活支援総合事業**」の市民参加の種類や実績等について、説明する。（※資料「**調査票**」(介護予防・日常生活支援総合事業)参照。）

質 疑 応 答

【委員】

アンケート調査で、事業所の調査件数が「？」となっているのはなぜか。事業所は何件か決まっているのではないかと思う。

【事務局】

担当所管によれば、電話帳を使って一斉にFAXで送ってアンケート調査を実施した関係で、正確な件数がわからなくなってしまっているということで、今回はお示しできていない。

検 証

【委員】

きちんとしたルールやセオリーに則ってしっかり行われていることはわかった。

1 『附属機関等の開催』 市民公募の委員さんが全体20名に対して2名というのは少ない気がする。

2 『パブリックコメントの実施』 20日間という期間が短いと感じる。広く一般の市民からご意見をいただくには、もう少し手法があったのではないか。

3 『アンケートの実施』 電話帳以外に何か調べる方法はなかったのかというのが率直な意見である。また、そのアンケート結果を取りまとめたものがなかった。

最後、『総括』について、本当にいろいろな手法を取られてやってこられたということは適切だ。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 おおむね普通という考えである。

2 『パブリックコメントの実施』 期間も他の市民参加のものに関連して見ると適切だと思う。ただ、資料の内容に関しては、確かに行政が伝えたい内容は盛り込まれているが、資料自体は市民にわかりやすいのか疑問である。内容としては適切だが、そういった工夫の余地もあると考えた。

3 『アンケートの実施』 事業もやはり届出等もあるかと思うので、何施設に行って、何%程度の回収とした方がいい。実施方法もFAXで実施するのはどうなのか。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 全員が100%出席できているのか見えないのでわからない。時間帯については、業者の方が多く、日中は勤務されていると思うので、夜の開催は適切だったと思う。

2 『パブリックコメントの実施』 「実施場所が適切か」という点で、高齢者が使いそうなふれあいセンターがどうして抜けているのかというところがわからない。

3 『アンケートの実施』 FAXで良かったのか。他の手法で無作為2,000名に送っている手法もあるならば、FAXではなくお手紙で出した方がよかったのかなと思う。

4 『その他』 目的に対しての実施方法について、出張して説明会を実施した点はとても評価できる。結果をどのように活用しているかというのは適切である。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 関係団体というのはどの程度のジャンルなのか、この17という数値が適切なのか判断できない。公募委員は2名ということで、これ以上増やすのは、手を挙げる方もいないと思うので、これも難しいなと思う。

2『パブリックコメントの実施』特に1回目が6人、2回目が3人、この9人というご回答者が果たして、パブリックコメントに該当するのかどうかというのが少し疑問である。パブコメは待っている状況なので、なかなかこちらから営業をしかけるわけにはいかないと思うが、そのパブコメの回収の仕方に対して、何か工夫がないのかな、というのが感想である。

3『アンケートの実施』許認可事項であるのかどうかは別にして、こういう施設は最低でも件数とか名前は台帳ベースくらいにして持っていなければならないのかなと感じている。

4『その他』「目的に対し実施方法は適切か」については、実際に40回、1,000人以上ということに対して、市民参加という意味では、数値が全てではないのは理解しているが、非常に評価できる。

また、「結果をどのように活用しているか」の設問に関しては、設備や予算とかいろいろな問題が絡んできて、なかなか単純には評価しにくいところではある。

【委員】

1『附属機関等の開催』関係団体が17、その内訳、どういった関係団体なのかよくわからない。

2『パブリックコメントの実施』公民館や図書館等高齢者が多い実施場所である。子ども達や若い世代のお母さんが集まるところに、パブリックコメントの実施場所が設定されていない。

それから、パブリックコメントには、市内で事業を行っている法人の方の意見が多い。一般の市民の方もこういったことについての意見があった方がいいのではないかと思う。

3『アンケートの実施』実際にアンケートで書かれた内容を見ると、このように集めてうまく活用してくれれば良いなど期待を持っている。

【委員】

1『附属機関等の開催』できれば公募委員2人がどういう方なのか、知りたい。それから、例えば行政関係者は0、その他が0になっていて、ほとんどが関係団体、事業者なのかという捉え方になる。もう少し、委員の参加者を考えていただきたいと思う。ただしやっていることは、それなりの事業の制度を作られたのかなと思う。

2『パブリックコメントの実施』ほとんどが事業者、関係者からなるように見える。一般の市民の方の意見がほとんど入っていない。

3『アンケートの実施』もっと、事前に企画を練ってやったのかなと疑問がある。特に、高齢者の方が書くというのは非常に嫌がる。そういう意味で、もう少しアンケートの内容も考えてほしかったと思う。

『その他』出張説明会は良かったのではないかと思う。

【会長】

私が伺った感じで申し上げますと、当審議会の次回の進め方に関わる部分と、事業に対する意見の両方あったように思う。

まず、審議会に関することでは、資料は非常によく作っていただいているが、審議会のメンバーを、固有名詞は出さなくても属性、第何十代の何業の方か、あるいは関係団体もどういった関係団体なのか、事業者名を出さなくても医療関係や介護・福祉事業関係等がわかる資料があると、特に項目1番『附属機関等の開催』について、もっと評価が高かったように思う。

もう一つは審議会の出席率が見えないというご意見はごもっともである。出席しているからいいという話ではないが、逆に出席を全然していないというのは問題であると思う。ここはおそらく資料の作り方で、出席者数もあるとなお良かったと思う。

あと、『アンケートの実施』と、『その他』にある「結果をどのように活用しているか」という項目に少し工夫が必要であると思う。

【委員】

先ほど、パブリックコメントの意見がどうしても事業者の方の意見になっていて、市民の意見が入っていないというお話があった。ひとつ確認だが、パブリックコメントは市がホームページをはじめ複数の実施場所を通じて行っていて、市民が意見を出せないという状況ではなくて、意見を出しても構わない。しかし、どうしても事業者の方が多いとか、どうしても子育ての世代は、ご年配の方の介護には関心が薄いであるとか、ご年配の方であれば、子どもの方はわからなくて、という状況があり、なかなか意見が出せていないのではないか。そういう考え方であれば、市民の意識で仕方のない部分があると思った。

【会長】

行政学者の立場でパブリックコメントについて解説すると、案件によっては一般市民の方からご意見を頂戴した方がいい案件もある。ただ、国がやっているパブリックコメントはかなり政策の骨組みに関するところから実施するので、そういう場合は実は事業者からのテクニカルな指導や意見等、事業者しかわからない実態などもある。必ずしも事業者が多いからいけないとか、市民の方が少ないからいけないというわけでもないが、この場合は案件によりけりだと思う。今回については、委員ご指摘の通り、広く受けているけれども事業者が多かった、ということで、どうすればもっと一般の方の目に留まるようになるのかというのは、確かに課題であると思う。

【委員】

どうしても、関連の事業者さんの意見が多くなる。もし、市民から広い意見が必要なものであれば、市民アンケートを追加で実施する等のフォローがあれば、評価が上がる。

【委員】

実際、子育てをしている人達のご意見、介護に対してはやはり高齢者ないしは介護をしている方達のご意見、やっぱりそこにどうしても行く。若い人達に介護の意見を求めても、実際に経験していないご意見が参考になるかということ、現実とは遠いところのご意見や理想論みたいところで終わるような気がする。

【会長】

パブリックコメントで全てを決めるというよりは、最後の仕上げであり、取りこぼしがないかどうかの確認がパブリックコメントの制度の趣旨かと思うので、あまりこれで重要な決定がなされるようにはお考えにならない方がいいかと思う。

② 東村山市人口ビジョン・東村山市創生総合戦略

【事務局】

- 事務局より、「東村山市人口ビジョン・東村山市創生総合戦略」の市民参加の種類や実績等について、説明する（※資料「調査票」(東村山市人口ビジョン・東村山市創生総合戦略)参照。)

質 疑 応 答

(無し。)

検 証

【委員】

2 『パブリックコメントの実施』 それなりに意見が出ていたので、適切であると思う。

3 『アンケートの実施』 いろいろな意見が出ているが、それをどのように活用しているかという点についてはまだ疑問がある。もう少しどういう風に活用したかが分かればありがたい。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 適切なのではないか。実施場所、回数、年齢層やターゲットも良いと思う。

2 『パブリックコメントの実施』 資料の内容がうまく、コメントに対しても返信がうまくかみ合っているし、良いのではないか。

3 『アンケートの実施』 どのように活用していくかということで、どういった世代の人が東村山から移られて、または東村山に来られているか、この総合戦略に結果として活かされている。このパブリックコメントの資料の内容もアンケートの結果をどのように活用するかということでは、この1冊に集約されていると思った。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 立派な資料を作られていて、メンバーもそれなりに選ばれた人達のご議論されたのだなという印象を受けた。それから、20代と30代の市民2名、これが非常に気に入っている。ある程度こなれた人達の意見より、若い人達が意見をおっしゃることや、若い人が委員に入っていることだけでも、非常に評価したいと思っている。

2 『パブリックコメントの実施』 人数は5名と少ないが、立派だと私は思う。非常に真面目な意見も多く、それに対する対応も良いと思う。

3 『アンケートの実施』 アンケートだけを見ると非常に興味を引かれる内容である。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 開催日程や時間帯がどうかとか日程で参加者がどうかとか、資料がないので何とも言えない。開催回数の方は、この中で5回も実施されているというのはかなりタイトなスケジュールで頑張られていると評価させていただく。

2 『パブリックコメントの実施』 実施場所が、中央公民館が建替えということでないので、それ以外のところでは全て実施されているので、これは素晴らしいと思った。

3 『アンケートの実施』 「結果をどのように反映しているか」について、この冊子を見させていただくと素晴らしいと思うので、ぜひこれを元に本当の結果につなげていただきたいと思います。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 市民の公募委員はいるが、この総合戦略に対してなぜ20代と30代に限定して、それ以上の年齢の市民を入れなかったのが疑問である。市の方もいろいろターゲットを考えて決めたようだが、20代30代と若い子育て世代が住んでいればいいのかなどというところもあったので、少し疑問に思った。開催回数に関しては、これは国の期限が決められて、タイトな中でよくやっていて、委員の方も参加されているのは評価する。

2 『パブリックコメントの実施』 先ほどの事業より、実施している場所が多かったので評価したい。

3 『アンケート実施』 実施の方法や時期等とかは良かったと思う。結果に関しては、国に提出したものであるということで、これを提出しなければ、その先が市としてのものがないので、それは本当に行政の方の努力と

いうことで評価する。

【委員】

1 『附属機関等の開催』 公募の委員さんは20代30代であり、その募集方法にも力を入れて、結果、若い世代から2名、応募する方がいらしたということは非常に評価できると感じた。

2 『パブリックコメントの実施』 内容の面でもう少しあっても良かったのではないかと思う。若い方からターゲットを絞った形でのコメントの集め方、そういった工夫がもう少しあるとよいと率直に感じた。

3 『アンケート実施』 無作為で2,000名に送ったというのはいいと思う。若い世代にも関わらず、回収率が良かったというのもいいと思う。

【会長】

先ほど、「結果をどのように活用しているか」という点の評価が難しいと申し上げたが、今回のような成果物がはっきりしているケースについては「活用している」「いない」が比較的判断しやすいようである。委員の方のご意見を聞いても成果物を見て判断なさっているということがよくわかった。

3 その他

【事務局】

○事務局より、事務連絡を行う。

○次回の見守り検証会議は、平成28年10月6日（木曜日）の夜6時から開催予定。

【会長】

それでは、第2回の見守り検証会議を閉会とする。

以上